

各國刑法比較纂集

第十六

各國刑法比較纂集

第二十七篇

私和盜賊

プロイセン 千八百五十一年四月十四日

ノ刑法

第二百三十七條

凡ソ自己ノ利益ノ爲メ或ハ然ラサルモ物品ノ竊盜監守自盜若クハ其他ノ重罪輕罪ヲ犯シ因テ得タルモノナルヲ了知シテ之ヲ隱藏シ、購求シ、典當ニ取り又ハ又ハ其他ノ施為ヲ以テ已レノ所有ト爲シ或ハ他人ニ販賣スルノ援介ヲ為ス者并ニ已レカ了知セシ重罪輕罪ニ関レ自己ノ利益ヲ計ルカ為メニ竊盜監守自盜若シハ此ニ類セル

重罪輕罪ヲ犯セシ人ヲ救助スル者ハ一ヶ月
少カラザル禁獄且ツ有期ノ民権剥奪ヲ
以テ夷刑セラル可シ又此犯者ヲシテ同時ニ
警視ノ監察ヲ受ケシム可シ

凡リ酌量輕減スヘキ情狀ノ判然現ハル
下ヲ確認スル中ハ之ヲ減シテ一週間
カラ、サル禁獄ノ刑ニ致ル可シ

第二百三十八條及ヒ第二百四十條 此兩條ハ
私和盜賊ニ於ル増加罪ノ原因ヲ論ス
サツキセシ 千八百六十八年十月一日改

正ノ刑法

第十二篇

財産ニ就テノ重罪犯

第二百九十二條 (私和盜賊)

凡ソ此篇中竊盜脅迫營利監守自盜遺失物監

守自盜及ヒ第百七十七條中(強盜)及ヒ第百七

十八條中(強盜)ノ脅迫營利ニ揭示セシ重罪

或ハ同時ニ右罪犯ノ一箇ヲ含有セル軍律上

ノ重罪(軍律書ノ第四及第五卷中第一章)比

較ス可シニ依テ得タル物品ニ減テ不正利

益タルヲ了知シテ已レノ所有ト為ス者

或ハ右物品正不正ヲ考量ス可キ情狀中ニ

於テ贈遺購求若クハ其他ノ方恣ヲ以テ右ノ

物品ヲ已レノ所有ト為ス者ハ私和盜賊ノ罪

犯ナリトシ四個月ヨリ多カラサル禁獄又ハ

二年ヨリ多カラサル工場刑ニ處セラル可シ

凡ソ私和セシ盗賊ハ止メ呈訴^{ヲ待テ}處決セ^{ズキ}ル可キ重罪ニ依テ得シモノニシテ私和盗賊ノ犯者之ヲ^{依テ}見レノ所有ト為スニ当リ其重罪ヲ了知セシニ於テハ呈訴ヲ待テ乃チ其罪犯ヲ処^ス入可シトス

凡ソ家婦及ヒ子女タル者^{選舉父母ノ養育ヲヒ教育父母ノ教育ヲ受ク}若シ家夫或ハ父母ヨリ受ル所ノ資給^{衣食}ヲ不^レ洽ニ依テ得物品若クハ此物品ヨリ得タル代價ニ頼^{其親}持セシ片ハ之ヲ私和盗賊ノ罪犯ト見做ス可ラス

第二百九十三條 (盗賊ヲ隠藏シ及ヒ私和スルヲ以テ職業ト為スノ罪)

凡ソ窃盜強盜及ヒ詐欺取財者ノ窩主タルヲ以テ務ト為シ或ハ窃盜強盜或ハ其他ノ重罪ニ依テ得タル物品ヲ輸収シ又ハ蓄藏スル為メニ右ノ罪犯者ニ場所ヲ貸與スルヲ以テ務メト為ス者或ハ盗賊ヲ私和シ又ハ販賣スルヲ以テ^業ト為ス者ハ六年ヨリ多力ヲサル工場刑若クハ徒刑ニ處セラ^ル可シ

ハツセン (千八百四十一年九月十七日ノ

刑法)

千八百四十一年九月十七日ノ刑法書ハ私和盗賊ノ罪犯ニ就テ特ニ條例ヲ設ケス概子^事罪犯後加功ノ罪ニ於ルノ條例ヲ擬決スルモノ

トス

チユーリソングリスターテン (千八百四十

九年ノ刑法)

私和盜賊ノ罪

第二百三十一條

凡ソ竊盜者又ハ強盜者タル

ヲ知テ其窩主ト为リ或ハ竊盜又ハ強盜ノ

罪犯ニ依テ得タル所ノ物品ヲ販賣スルヲ以

テ職業ト爲ス者ハ六年ヨリ多カラサル工場

刑若クハ徒刑ニ處セラル可シ

ブラーウシユワイグ (千八百四十年七月十

日ノ刑法)

千八百四十年七月十日ノ刑法書ハ私和盜賊

ノ罪犯ニ就テ特ニ條例ヲ設ケス止タ罪犯後

加功ノ罪ニ係リタル一般ノ制定ニ照準シテ

処決スヘキモノナリトス

バエールン (千八百六十一年十一月十日

ノ刑法)

第三百八條 凡ソ物品ノ強盜竊盜或ハ監守自

盜ニ依テ得タルモノナルヲ了知シテ之ヲ

買得シ貿易シ抵当ニ取り或ハ其他ノ施爲ヲ

以テ已レノ所有ト爲ス者并ニ強盜竊盜或ハ

監守自盜ノ罪ヲ犯セシ人ナルヲ了知シ而

モ此罪犯ニ関シ已レノ利益ヲ得ンカ爲メニ

此人ヲ保庇スル者ハ私和盜贓ノ罪犯ナリト
ス

ウールテンベルグ (千八百三十九年三月

一日ノ刑法)

第三百四十三條 (私和盜贓)

凡ソ貪欲ナル故意ニ於テ竊盜者ニ投宿ヲ許
シ或ハ竊盜セシ物品タルヲ了知シテ之ヲ
受寄シ若クハ隱藏シ若クハ已レノ固有ト為
シ若クハ他人ニ販賣スルノ媒介ヲ為ス者ハ
私和盜贓ノ罪犯ト為シ禁獄ノ刑ヲ以テ処シ
且ツ民權剝奪及ヒ職業權剝奪ノ刑ヲ加フ可
シ

凡ソ禁獄ノ刑ハ私和盜贓罪犯ノ輕重ニ從テ
罪犯後加功セシテ竊盜罪ノ輕重ニ準シ處決セ
ラル可シ

凡ソ私和竊盜ノ罪犯ヲ以テ職業ト為ス者ハ
第五十一條ニ照準シ工役ノ刑ヲ以テ處決セ
ラル可シ

第九十一條 凡ソ職業トシテ罪犯後加功ノ重
罪ヲ犯セシ者若シ職業交際ノ為メニセシニ
於テハ公權及ニ營業ノ有期或ハ無期ヲ剝奪
シ兼ヌルニ工役刑ヲ以テ處決セラル可シ

警察上ノ刑法

第六十三條 凡ソ竊盜或ハ監守自盜ヲ屬セシ
一ハ確然了知セシハ販賣者ニ對シ不法ト

利益ノ物品ナルヲ推考スルキ情状中ニ
其竊取セシ物品ヲ已レノ所有ト為ス者
ハ五十ギユルデシヨリ多カラサル罰金ヲ科
セラル可シ而シテ較ヤ重キ情状アルモノ或ハ
再犯ニ就テハ六週間ヨリ多カラサル禁錮ノ
刑ニ處セラル可シ

ロシヤ 千八百六十六年五月五日魯國皇
帝ノ勅令ニ依テ新タニ版行シタル刑事
及ニ懲治罪ノ律書我皇陛下ノ書記局
第二分課ニ於テ之ヲ譯述ス

第十二卷
第三篇

第三節

竊盜罪犯

第千百六十六條 凡ソ竊盜或ハ其既行未成ニ
就テ加功ヲ為ス者并ニ其障碍ヲ為スヘキ
ヲ怠リシ罪犯者及ヒ竊盜者ヲ掩匿シ或ハ竊
取セシ物品ヲ隱藏スル者ハ左ノ罪科ニ處セ
ラル可シ

重罪ノ從犯ニ就テ此刑法書中某條例ニ論
セシ制定ノ本旨ニ基キ處決スルモノトス

第一卷
第二篇
第三節

重罪從犯ノ輕重ニ應シ處決スルノ刑

第百二十四條 凡ソ盜賊ヲ隱藏セシメ者ハ若シ重罪

ノ所行ヲ犯スニ當リ加功ヲ要セスレテ之ヲ為シ得ヘキ罪犯(第百條)ニ加功ヲ為セシ人ニ

對シ罪犯後加功ノ重罪ヲ以テ擬スヘキ刑ニ依テ決セラレ但其一等ヲ減セラル可キナ

第百二十五條

凡ソ重罪ヲ遂クルニ必ス缺ク可ラサルノ加

功ヲ為セシ者ハ之ヲ罪犯後加功ノ重罪ニ依

テ論シ律中比ノ重罪ニ擬スヘキ刑ヲ以テ其

主犯ト同斂ニ處決ス可シ但シ其他諸罪犯

ハ重罪ノ所行ヲ犯スニ當リ現ニ加功ヲ為セ

シ從犯ヨリ一等ヲ減シテ之ヲ處決スヘキナ

リ●重罪ノ所行ヲ犯スニ加功ヲ為スヘキナ

ラ契約シテ其後ニ至リ之ヲ破約シタルモ裁

判定期内ニ此事由ヲ自首セサリシ者ハ刑訟

中重罪犯タルヲ了知シ故意ニテ之ヲ訴訟セ

サリシ者ニ擬スルノ刑ニ處決セラル可シ

ブレームン 千八百六十八年ノ草案

第百九條 罪犯後加功ノ罪犯(利益ノ為)

凡ソ強盜若クハ強盜ニ比シキ脅迫營利或ハ

竊盜若クハ竊盜ニ同シキ監守自盜ノ犯者該

重罪ヲ全成シタル後(利益ヲ謀ル)為メ其

主犯又ハ其從犯ニ加功ヲ為シ以テ其犯者ヲ

營利ノ要具ト為ス者ハ之ヲ私和盜賊ノ罪犯

ニ依テ論シ本罪ニ擬ス可キ禁獄ノ刑ニ處ス

可シ

第八十三條

（累犯）後加功ノ累犯（ハレハ利益ヲ全ク人ノ為メニスルモノ）

凡ソ重罪ヲ犯セシ後此累犯ノ所行ヲ為スニ
同盟一致セシテナクシテ其主犯又ハ從犯者
タルヲ知リナカラ該者ノ刑ニ處セラル可キ
ヲ免カレシメンカ為メ或ハ其累犯ヨリ生ス
ル利益ヲ確乎ト保有セシメンカ為メニ之ヲ
救助シタル者ハ之ヲ累犯後加功ヲ為セシ者
ト見做シ他ニ特定ノ成規アラサレハ本罪ニ
擬ス可キ禁獄ノ刑ニ處ス可シトス

第四百十條及第四百十三條

此兩條ハ私和盜
贓ニ就テ特別ナル処刑ノ原因ヲ論ス

第四百十四條

（私和盜贓）

凡ソ物品ノ重罪犯ニ依テ得タル物（ハレハ）ヲ
了知シ或ハ其事ヲ必ス捜究スルキ情状アル
ニ之ヲ隱藏シ買得シ拒当ニ取リ若クハ其他
ノ施為ヲ以テ之ヲ已レノ固有ト為シ或ハ他
人ニ販賣スルノ授介ヲ為ス者ハ私和盜贓ニ
依テ論シ禁獄ノ刑ヲ以テ処シ或ハ一百タ
レルヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シ

第四百十五條及第四百十七條

此兩條中ニ
ハ私和盜贓ノ輕重罪科ニ就テ其條例ヲ設ケ

シモノナリ

第四百十八條

凡メ家婦并ニ子女又ハ教育ヲ
受クベキ年少者等ハ不正ニ依テ得タル物品

或ハ其物品ヲ賣却シテ得タル所ノ金ナルヲ了知シ此ヲ以テ日常其家夫並ニ其兩親又ハ其教育父母ヨリ受ル所ノ資給(衣食)ヲ維持セルモ私和盜賊ノ罪犯トシテ決セラレザルナリ

千ニ一リヒ 千八百六十六年ノ草案

第百八十一條 凡ソ已レカ利益ノ為メニ強盜或ハ其他之ニ比シキ重罪又ハ輕罪ニ依テ得タル物品ナルヲ了知シテ之ヲ買得シ抵当ニ取リ若クハ隱藏スル者并ニ強盜竊盜又ハ監守自盜ノ罪ヲ犯セル人ナルヲ了知シテ此罪犯ニ関シ其人ヲ救助スル者ハ私和盜賊ノ罪犯ニ依テ決セララル可シ

第二十八篇

騙欺取財

プロイセン 千八百五十一年四月十四日

刑法

第二百四十一條 凡リ貪欲ナル目的ニ於テ無根事實ヲ言ハ或ハ有根事實ヲ色秘シ又ハ其抑塞ナルヲ依テ他人ノ疑惑ヲ醸成シ以テ其財産ヲ損害スル者ハ騙欺ノ罪犯ナリトス

第二百四十二條 凡ソ騙欺并ニ騙欺ノ既行未成ハ一年以上ノ禁獄ヲ以テ決シ且ツ同時ニ

マテ

五拾ヲラシクヨリ少カラス一千ヲラシクヨ
リ多カラザル罰金ヲ以テ科シ并ニ有期ノ民
權利奪エ加ヘラル可シ

若シ酌量輕減ス可キ情狀ノ判然現ハレシ
ヲ確認スル片ハ其刑ヲ殺ヒテ一週間ハ禁獄
ニ至ラシム可シ或ハ止テ五日レレシヨリ少
カラサル罰金ノ減殺スルアリ

サツキセシ 千八百六十八年十月一日改

正ノ刑法

第二百八十四條 (騙欺取財)

凡ソ無底ノ事實ヲ偽ルニ依リ或ハ有根ノ事
實ヲ秘スルニ依リ或ハ確定セシ事項ヲ以テ

觀レハ自然正實ナルト爲シ得可キノ趣巧ニ
依リシモノナルヲ論ゼス詐欺ヲ以テ某人ノ
損害ト爲ルニキ方ヲ施用シ自己又ハ他人ノ
爲メニ不込ノ利益ヲ管ム者ハ騙欺ノ罪犯ナ
リトス

第二百八十五條 (騙欺取財ノ罪)

凡ソ特別ニ掲載シタル場合即チ偽造證書ヲ
用フルニ依テ行ヒシ騙欺ヲ除クノ外ハ通常
窃盜ノ罪犯ト同シカル可シ

ハツセシ 千八百四十一年九月十七日ノ

刑法

第三百九十一條 凡ソ某人ノ權理ヲ妨害シ或

ハ自己又ハ他人ノ為メニ不正ナル利益ヲ営
ムノ目的ニ依テ特別ノ義務ヲ損害シ情ヲ知
テ無慮ノ事實ヲ確約ナリト去テ者或ハ有根
ノ事實ヲ秘包シ若クハ抑塞スル者或又特別
ノ義務ヲ損害スルヲナシニ詐欺ノ方法ヲ以
テ詐行ヲ企ツル者或ハ某人ノ自己ニ萌蘗セ
ル疑惑ヲ他ヨリ或ル所為ヲ施シテ養成シ因
テ某人ニ損害ヲ加ヘシ者ハ騙欺取財ノ罪犯
ナリトス

第三百九十三條 若シ某人ノ財産ヲ騙欺シテ
其代價拾五ギユルデシ以上ノ総計ニ至ラス
而メ其所為タル第三百九十五條及ヒ第三百
九十七條中ニ掲ケタル如キ情状ノ毫モ之レ

無キハ小騙欺取財トシテ禁獄ノ刑ニ処セラ
ル可シ

第三百九十四條 九ノ前條ノ如キ小騙欺凡見
積ス可ラズ亦第三百九十七條中ニ記載セシ
情状ノ一箇ニ依ルモ之ヲ辨知ス可ラザル騙
欺ハ單純騙欺取財ト為シ三年ヨリ多カラザ
ル懲治監或ハ五年ヨリ多カラサル徒刑ヲ以
テ必決セララス可シ
然レモ若モ初犯ノ騙欺取財ニシテ其物品ノ
代價五ギユルデシ以上ノ総計ニ至ラザリシ
中ハ禁獄ノ刑ニ處セララル可シ

チユーリリンキニスタターテシ 千八百四十

以テム

依テ得ル物

九年ノ刑法

第二百三十六條

凡シ某人ニ對シ其ノ財產ノ損害

ヲ加ヘンガ為メキ不法ヲ以テ某人ノ疑惑ヲ

萌醸シ或ハ其疑惑ヲ幸ト為シテ其財產ヲ損

害スルハ目的ヲ達シ得ル者ハ騙欺ト為ザル

此ノ眾犯ヨリ生ゼシ損害ノ大小(騙欺ニ依テ

ノ多)ニ準シ通常竊盜ノ眾ヲ以テ處決セラレ

可(場合ニ在ラズ)

爾リシ時ニ犯者自己又ハ他人ノ為メニ利益

ヲ營マンコトヲ企望セシ乎或ハ企望セザリシ

乎ヲ論セス此眾犯ニ在テハ渾テ之ヲ同一ニ

見做ス可シ然レ凡其企望セザリシ者ニ就テ

ハ禁獄ノ代アリニ相当ノ罰金ヲ科シ得可シト

ス

第二百三十八條

若シ某人自己ハ不注意又ハ

卓見ナキヨリシテ疑惑ヲ抱クニ及リ其疑惑

ヲ幸トシテ之ニ乘シ而テ他ノ施為モナス自

然ニ之ヲ已レノ所用ト為セシ者ハ騙欺ノ眾

トシテ罰セラル可ラス

或ハ底タニ一般ノ喝采及ト一般ノ詭話ニ依

テ某人ノ疑惑ヲ萌醸セシ并ハ前項ト同リ亦

騙欺ノ眾ヲ受クルコトナシ

凡ソ契約ヲ結ブニ當ツテ一般騙欺ノ眾ヲ處

決セララル可キ者ハ該ニ締約ヲ為セシ一方ノ

人其疑團ヲ抱キシ事由ノ確實ナルヲ了知

セシナラハ其締約ヲ全ク為サリリシ乎又ハ

此ニ就テ詐
非トスル刑
モハハカ
カ一方ノ迷
陥リシ時ノ
狀ニ從ヒ之ヲ
若シ其際

九年ノ刑法

第二百三十六條

凡シ某人ニ對シ其ノ財產ヲ損害
 ヲ加ヘンガ為メキ不法ヲ以テ某人ノ疑惑ヲ
 萌醸シ或ハ其疑惑ヲ幸ト為シテ其財產ヲ損
 害スルハ目的ヲ達シ得ル者ハ騙欺ト為サレ
 此ノ眾犯ヨリ生ゼシ損害ノ大小(騙欺ニ依テ
 多)ニ準シ通常竊盜ノ罪ヲ以テ處決セラレ
 可^ハ爾^ハシ時ニ犯者自己又ハ他人ノ為メニ利益
 シ管マン^トラ企望セシ乎或ハ企望セサリシ
 乎ヲ論セス此眾犯ニ在テハ渾テ之ヲ同一ニ
 見做ス可シ然レ氏其企望セサリシ者ニ就テ
 ハ禁獄ノ代^リニ相當ノ罰金ヲ科シ得可シト

ス

第二百三十八條

若シ某人自己ハ不注意又ハ
 卓見ナキヨリシテ疑惑ヲ抱クニ及リ其疑惑
 ヲ幸トシテ之ニ乘シ而テ他ノ施為モナス自
 然ニ之ヲ色^トノ巧用ト為セシ者ハ騙欺ノ罪
 トシテ罰セラル可ラス
 或ハ底タニ一般ノ喝采及ヒ一般ノ詭話ニ依
 テ某人ノ疑惑ヲ萌醸セシハ前項ト同ク亦

契約ニ就テ詐欺罪トシ刑ニ処スヘキモノハ其契約ヲ結ヒシ時ノ事情ニ從ヒ

之ヲ觀ルニ其迷信者若シ他ノ一方^ハ不信ナルヲ察知セシニ於テハ其約ヲ全

取結ハサリシ乎又ハ他法ヲ以テ取結フヘキ了必然ナリトノ状ヲ明認セシ時

限ルナリ

事情ノ實否ヲ
審ニセシテ
全ク約ヲ結ハカリシ
年又ハ其
別ニ方法ヲ改メテ
之ヲ結フキモ
リレトシテ
然レトス
トス

他ニ結約スルハ其方法ハ有ルハキモノナルヲ
其景状ヨリシテ認メ得ルニ足ル可キ事由上
ニ就テ其疑團ヲ萌醸セシ中ノ之ニ在リトス
結約ニ就テノ騙欺取財ハ其一方ヨリ呈訴ヲ
待テ糾弾シ且ツ其罪ヲ必滅スヘキモノナリ
トス

ブラーウシ、シウワীগ 千八百四十年七

月十ロノ刑法

第二百二十四條 騙欺取財

凡シ某人ニ對シ財産ノ損害ヲ加ヘンカ为メ
ニ其人ノ疑惑ヲ萌醸シ或ハ其疑惑ヲ章トシ
要スル者或ハ貪欲ナル目的ニ依テ其罪犯ノ

本意ヲ遂ゲタル者ハ左ノ如ク判決セラレル可

第一款 若シ醸成セシ損害即チ騙欺ニ依テ

得タル利益五百匁以上ニ至ルハ
徒刑ヲ以テ処ス

第二百二十五條 前ノ續キ

第二款 一年以上ノ徒刑ニ処ス可キモノハ

甲 醸成セシ損害即チ利益ノ代價若五百
一レレ以上ニ至ルハ

乙 場合ニ從ハハ

詐欺ニ依テ得タル利益即チ其損害ノ
總計三十匁以上ニ至リタル

片

第二百二十六條 前ノ續キ

第三款 一年以下ノ徒刑ニ處ス可キモノハ

詐欺ニ依テ得タル利益即チ損害ノ代

價ニタリレル以上ニ至リタルキ

六種ノ場合ニ從ハル

(七) 詐欺ニ依テ得タル金額五タリレル以

上ニ至リタルキ

騙欺取財ノ罪 第二百二十四條乃至第

二十六條ニ掲ゲシ情状ノ一箇ニ依テ重ク為

ス可キ者ニ未レハ之ヲ警察禁獄ノ刑ニ處ス

可シトス

第二百二十七條 契約上ニ就テ騙欺取財ノ條

例ヲ用フ可キ經界

凡ソ契約上騙欺取財ノ罪犯ヲ以テ決ス可

キモノハ騙欺ヲ被リタル人ノ損害ヲ

其請求ニ應ジ直ニ償ヒ得ルヲ能ハサルキニ

在リトス

サツキセン、アルテンブールグ 千八百四

十一年五月三日ノ刑法

第二百四十五條 凡ソ無底ノ事實ヲ確證ナリ

ト發言スル者或ハ其正テ語スハモ義務アル

關係中ニ於テ有根ノ事實ヲ包秘シ又ハ抑塞

スル者或ハ他人ノ右ニ同シキ所業ヲ為ス

ヲ知リ之ヲ知ラシメテ某人ニ損害ヲ加ヘタ

ル者或ハ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利

益ヲ營ミシ者若シ其物品有價ノモノナレハ
通常竊盜ノ刑ヲ以テ處決セラレ若シ其有
價物ニ涉ラザル片ハ三個月ヨリ多カラサル
禁獄或ハ六年ヨリ多カラサル工役ノ刑ヲ以
テ處決セララル可シモ毫モ貪欲ナル故意ヲ以
テ為サレリシトメ判然タル場合ニ於テハ裁
判官ニ訴スル禁獄ノ刑ニ換ヘテ相当ノ罰金
ヲ科スヘキトシテ以テス而シテ又第二百三十七
條乃至第二百三十八條中ニ論シタル關係親
屬間ノ竊盜及ヒ食物竊盜ニ於ケル騙欺取財
ノ所行ニ在テハ此兩條ニ記載セシ條例ヲ用
ラ可キモノトス

リバツク 千八百六十三年七月二十日ノ

刑法

第二百六條 凡ソ魚底ノ事實ヲ發言シ或ハ有
根ノ事實ヲ包秘シ又ハ相塞スルトシ依テ某
人ノ疑惑ヲ萌醸シ以テ自己ノ利益ヲ營シ或
ハ貪欲ナル故意ヲ以テ某人ニ損害ヲ加フル
者ハ詐欺取財ノ罪犯ナリトス

第二百七條 凡ソ詐欺取財ノ罪犯若シ第二百
八條乃至第二百十條ノ目的點々外スル片ハ
左ノ如ク處決セララル可シ

第一款 若シ物品有價ノモノナレハ第二百七
十八條ノ例ハ通常竊盜ノ刑人制定ニ照準
シテ處決セララル可シ

第二款 若シ物品價ナキモノハ六ヶ月以下ノ刑ニ処スル
ハムブルグ 千八百六十九年四月三十
日ノ刑法

第百八十九條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不
法ナル利益ヲ管マンカ為メニ無底ノ事實ヲ
偽造シ或ハ有根ノ事實ヲ抑塞シ或ハ偽計詐
術ヲ施スルニ依テ一ノ疑惑ヲ醸萌シ或ハ之
ヲ養成シ而シテ某人モ財産ノ損害ヲ加フル者
ハ左ノ如ク処決セラル可シ
第一款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五十ク
ノレレ以上ニ至ル片ハ五年ヨリ多カラサ
ル徒刑ニ処セラル可シ 七種ノ場合ニ從テ

第百九十條

第二款 四週間ヨリ少カラス三年間ヨリ多
カラサル羈絆ノ刑ヲ刑若クハ禁獄

第三款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五十ク
ノレレ以上ニ至ル片ハ一年ヨリ多カラサ
ル羈絆ノ刑ヲ以テ処決セラル可シ

第四款 此他諸ノ場合ニ於テハ六閱月以内
ノ禁獄若クハ二百クノレレヨリ多カラサ
ル罰金ヲ以テ處刑セラル可シ

バエールン 千八百六十一年九月十日ノ

刑法

第三百十四條 騙欺取財ノ處解
凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ

營マントスル^{故意}ヲ以テ無底ノ事實ヲ偽造^{作為}
シ或ハ有根ノ事實ヲ抑塞^{抑塞}シ或ハ偽計詐術ヲ
施ス^{依テ}ニ依テ^{十ノ}疑悉ヲ萌醸シ或ハ之ヲ養
成シ而シテ某人ノ財産ヲ損害スル者ハ騙欺取
財ノ^罪ナリトス

凡ソ騙欺取財ノ^罪ニ在テ該輕罪或ハ違式
ハ^罪既^未成モ亦其^罪決^テセラルル可シ

第三百十四條 (騙欺取財ノ刑)

凡ソ第三百十六條第三百十九條及ヒ第三百
二十條ノ^刑除ク^外ハ騙欺取財ノ^罪ニ在テ
左ノ如ク^決セラルル可シ^モアリ^テ
第一款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益ノ總計
拾ギユルデニ以上ニ至ラズ^且其^罪者未タ

實^質騙欺取財或ハ偽造ノ^罪ニ就テ^刑
セラレシ^テハ^刑於^テキハ^禁錮^ヲ以^テ
處^決ス可シ^市ノ^刑或ハ之ヲ^重刑^ト爲^ス得
^ルモ^或ハ^刑百五十ギユルデニ^ヨリ^テ多カラ
^ル罰金ヲ科ス可シトス

第二款 其他ノ場合ニ於テハ一個月以内ノ
禁獄^ヲ以^テ處^決ス可シ^而シ^テ此^ノ禁獄ハ五
百ギユルデニ^ヨリ^テ多カラザル^罰金ヲ^連帶
シ^テ科^ス得^ル可キ^所ノ^罪モ^ノナリ^若シ^テ騙欺ニ
依^テ得^{タル}利益^ヲ拾ギユルデニ以上ニ至ル
中ハ八年ヨリ多カラザル^徒刑^ヲ以^テ處^決
ス可シトス

ウールテンベルグ 千八百三十九年三月

一日ノ刑法

第三百五十一條 (甲) 詐欺ノ罪

凡ソ其人ノ權理ヲ損害スルカ为メニ情ヲ知
テ無底ノ事實ヲ確的ナリトシテ發言シ或ハ有根
ノ事實ヲ抑塞シ又ハ之ヲ秘包シ而シテ其人
ノ損害ヲ加ヘ又ハ自己ノ为メニ利益ヲ營ム者
ハ騙欺取財ノ罪犯ナリトス

第三百五十二條 (乙) 詐欺ノ罪

凡ソ其人ニ損害ヲ加ヘシ騙欺若シ實際及ト
此刑法書中ニ於テ刑ニ處ス可キ重罪犯トシテ
モシニ非レバ此ニ由テ釀成セシ損害ノ大小
ニ準シテ禁獄ノ刑ヲ以テ處決セラル可シ

但シ騙欺ニ依テ不法ナル當利ヲ起行シ而シテ
之ヲ成就シタル片ハ竊盜罪犯ニ就テ人制定規

第三百二十一條 第三百二十二條

秘取キモノトス

凡ソ契約條件中ニ不洽ノ詐欺アルカ为メニ

民法上ノ原理ニ準シテ其破約或ハ罰金ノ事故

ヲ該工得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ指テ受理セ

サルモノトス而シテ若シ契約者为一方ニ

人格外ナル詐術ヲ施シ他ノ一方又ニ結約スル

干至ルマデ誑誘セシ片ハ固ヨリ刑法ニ依テ

不可キナリ爾餘上人如キ場合ニ在テハ刑法

ノ取テ預預スル所ニ非ス
契約條件中騙欺ノ罪ニ就テハ被害者ノ訴ヘ

出ルヲ待テ乃チ之ヲ處決スル布也

バーデン 千八百四十五年三月六日同ク

五十一年二月五日ノ刑法

第四百五十條 (貪欲ヲ目的トシテ出タル騙欺ノ罪状)

凡ソ實造罪能(第三十篇)ヲ除クノ外貪欲ナル
目的ヨリ出テ偽計ヲ以テ有根ノ事實ヲ欺包
シ或ハ故意ヲ以テ有根ノ事實ヲ妨害スル
之依テ特別ノ義務ヲ損害シ情ヲ知テ財產ヲ
損害スルハ所行若クハ事業ヲ廢止スルニ至
ルマテ他人ヲ誑誘スル者ハ騙欺取財ノ罪犯
ニ依テ論シ之ヲ監守自盜(第四百三條)ノ罪ニ
処ス可シ

第四百五十一條 凡ソ某人ノ自己ニ搦起セシ

疑惑ヲ起シ(騙欺)ノ所依テ之ヲ欺待シ

而シテ貪欲ナル目的ヲ以テ某人ノ財產ヲ損害
スルハ其罪トシテ要スル者ハ前第四百五十條

ニ於テ処決セシ刑ノ四分三ヲ科セラル可シ

第四百五十二條 (契約ニ就テノ騙欺取財)

トシテ契約ヲ結フニ當リ不正ノ利益ヲ管ムコ

就テ第四百五十條及ヒ第四百五十一條ノ制

定ニ準シ騙欺取財ノ罪ニ処決セラル可キ者

ハ止メ左ノ所業ニ涉リシ片ニ在リ即チ

第一款 若シ契約ヲ為スル者ハ其契約

ニ於テ他人ニ損害ヲ加ヘ其契約物ヲ騙

欺ニ依リ巴レノ國有ト為サンガ為メ及ヒ

契約ニ於テ已レキ其報酬ヲ約スル
シテ他ノ一方其契約ヲ実行スル中
ニ存在セル利益ヲ騙欺ニ依テ已レノ固有
ト為サンカ為メニ契約ヲ為スヲ以テ騙
欺ノ方便ト為シ而シテ實際止右ノ物利ヲ已
レノ固有ト為セシ片

第二款 若シ民法上ニ照シ契約取消ノ訴訟
或ハ償金ノ訴訟ヲ為ス可キト堅固ニス
ルノ方法ヲ用ヒテ故意ノ詐欺ニ依リ且シテ其景
況ヨリ之ヲ觀レハ詐者同時ニ他ノ一方ニ
屬スル償金請求ノ權ヲ剥奪スルヲ以テ搜索
シ或ハ結約ノ他ノ一方ヨリ未タ償金請求
ノ訴訟ヲ為ササル前ニ當リ已レリ貧窮ニ

メ償金ヲ出シ得サルヲ以テ已ニ洞見セシ中
心判然タル場合ニ於テ不正ノ利益ヲ管コ
シ片

第四百五十八條 (貧欲ナル目的ナクニ騙欺取
財ノ罪ヲ犯ス事)

凡ソ貧欲ナル目的ナク恠惡心或ハ復讐ノ念
ヨリシテ騙欺ニ依リ他人ノ財産ヲ損害スル
ノ罪犯者其罪外ニ一ノ確定セシ重罪犯
所業ヲ為スニ至ラサリシ片ハ二年以下
妻カラサル禁獄或ハ徒刑ニ処セララル可シ

シユウーデン 千八百六十四年二月十六

第二十二章

第一條 凡ソ偽名ヲ用ヒ或ハ身位ヲ偽稱シ或
ハ其他ノ偽計詐術ヲ用テ他人ノ
財物又ハ金貨ヲ騙欺（取）若クハ其財物金貨ノ消
耗ヲ萌醸セシメタル者ハ罰金又ハ六個月ヨ
リ多カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ但シ
最後ニ掲ケタル場合ハ之ヲ除ク若シ騙欺取
財ノ罪犯極メテ重キ情状ノ現カレタルハ
二年ヨリ多カラサル徒場（禁錮）ノ刑ニ処決セ
ラル可シ

ブレーメン 千八百六十八年ノ草案

第百三十二章

第四百十九條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不
法ナル利益ヲ管マンカ為メニ無底ノ事實又
ハ贋偽ノ事實ヲ以テ騙欺シ依テ某人ノ疑惑
ヲ萌醸シ或ハ之ヲ養成スルヲ依テ某人ノ
財產ヲ損害スル者ハ騙欺取財ノ罪犯ナリト
ス
凡ソ騙欺取財ノ既行未成ハ亦其罪ヲ処決セ
ラル可シ

第四百二十條 凡ソ騙欺取財ノ罪犯後条第四
百二十二及ヒ第四百二十三條中ニ掲ケタル
目的ノ毫モ現ハレサル者ハ三年ヨリ多カラ
サル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ而シテ其取財キ
場合ニ在テハ禁獄ノ代リニ一百タレレル

シテカササル罰金ヲ科セラル可シ

ヲースタリヤ 千八百六十七年ノ草案

第二百七十四條 凡ソ故意ヨリシテ虚説若ク

ハ虚行^虚ヲ以テ某人ヲ誑欺^誑シ或ハ詐欺^詐ノ方法

ニテ手必ス疑惑ヲ萌醸スル所行ノ確乎タル

原由ナルコトヲ熟知セシ他人ノ疑惑ヲ曲ゲテ

取用^取シ因テ他人ノ財産ニ損害ヲ加ヘシ者ハ

騙欺取財ノ罪^犯ナリトス

第二百八十條 凡ソ詐欺ノ方法上ニテ他人ニ

對シ毫モ財産及ヒ人権ノ損害ヲ加ヘタルニ

ハ非レ氏故意ヲ以テ其他ノ權利ニ損害ヲ加

ヘ或ハ此ノ如キ方法上ニテ自己又ハ他人ノ

為メニ不正ノ利益ヲ管ム者若シ其所行此刑

法書中ニ確定セシ他ノ罪^犯ヲ為シタルニア

ラサル片ハ騙欺取財ノ輕罪^犯ト為シ一箇月

以上四箇月以下ノ禁錮ニ処刑セラル可シ

五ノリヒ 千八百六十六年ノ草案

第二百八十三條 凡ソ某人ノ財産或ハ其他ノ權

利ヲ損害スヘキ目的ニ於テ無底ノ事實ヲ發

言シ或ハ有根ノ事實ヲ秘包シ若クハ抑塞ス

ル^レニ依テ某人ニ疑惑ヲ萌醸セシメ或ハ其

疑惑ヲ養成スル者ハ騙欺取財ノ罪^犯ナリト

ス

第二百八十四條 凡ソ騙欺ノ罪^犯全成シタリト

見做スモノハ騙欺ノ所行其目的ヲ遂ケ而シ
騙欺セラレシ人ノ起行又ハ廢業ヨリテ
欺ノ爲メ其意志ヲ確定セシトノ判然タル
片ニ在リトス

第百八十七條 九ノ騙欺取財ノ罪犯ニシテ毫
モ第百八十六條中ニ掲載セシ如キ加等スハ
キノ罪囚アラサル者ハ單純騙欺取財ト爲シ
左ノ如ク處決セララル可シ

第一款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五百フ
ランク以上ノ總計ナル片ハ五年ヨリ多カ
ラザル徒刑或ハ工役ノ刑

第二款 若シ騙欺ニ依テ得タル利益五百フ
ランク以下ノ總計ナ

ル片ハ五年ヨリ多カラサル工役ノ刑或ハ
五千フランクノ罰金ヲ連帶セン禁獄ニ処
シ其取輕キ場合ニ於テハ單純ニ罰金ノミヲ
以テ処ス可シトス

各國刑法比較纂集

第十七

各國刑法比較纂集

第二十九篇

偽造証書ノ罪

プロイセン 千八百五十一年四月十四日
ノ刑法

第二百四十七條

凡ソ自己又ハ甲人ノ為メニ
利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的
ヲ以テ証書ヲ贋造シ若クハ偽造シ而メ詐偽
ノ目的ヲ遂ゲンカ為メニ真証書ヲ採用シタ
ル者ハ偽造証書ノ罪犯ナリトス

凡ソ証書トナリ了得ス可キ書類ハ契約指令

義務免許等ノ確証或ハ一般ノ貴重ノ權利若

クハ權利對稱ノ確証指シテ云フ

第二百四十條 凡ソ偽造証書ノ罪犯ト同視ス可キモノハ自己又ハ他人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ他人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ某
 人ノ姓名ヲ手署シタル紙上ニ其許諾ナキニ書載シ而シテ如此ノ証書ヲ採用スル片ニ在リトス

第二百四十九條 凡ソ自己又ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ偽造シ若クハ贋造シタル証書ナルヲ了知シテ之ヲ採用スル者ハ偽造者ト同視ス可キナリ

第二百五十條及ヒ第二百五十一條 此兩條ハ偽造証書ノ罪科ニ就テ其條例ヲ掲載セシモノナリ

才誠百廿条

凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ利益ヲ營ムノ目的ヨリシテ、^{大切}貴重ノ權利及ヒ權利、^{關係上ニ於テ}對稱ノ權利、^{大切}商議或ハ告知及ヒ事實ノ^{全ク}無根若クハ他種ノ方法上若クハ他人^中知リ出タル記載若クハ現在ノモノ^{ニ出テ}作為公然ノ証書、帳簿、手帳等ノ中ニ記載シ若クハ現在ノモノナリトシテ確証ト為スノ所行ニ涉リタル者ハ十年以内ノ徒刑ニ処セラレ且ツ一百タールヨリ少カラス二千タールヨリ多カラザル罰金ヲ科ヒラル可シ

上項ト同般ノ刑ニ処決セラル可キモノハ某人ニ害ヲ加ヘンカ為メニ偽造セシ証書タル

了知シテ之ヲ採用スル者ナル可シ

「ガツキセシ」 千八百六十八年十月一日改

正ノ刑法

第三百十一條 凡ソ何様タルヲ論セズ法ニ背
キタル目的ノ為メニ偽作シタル他人ノ姓名
若クハ已レノ関ス可キ推理ナキニ他人ノ姓
名ヲ題シテ証書ヲ製シ或ハ真正ノ証書ヲ贋
造シ或ハ滅却シ又ハ不可用物ト為シ或ハ他
人ノ姓名ヲ手署シタル紙白ヲ恣ヒマ、ニ塗
抹シ或ハ高賣帳簿ニ不正ナル損害ヲ與フル
者若シ右等ノ詐偽方法ヲ實施シ之ヲ既行若
クハ既行未成ノ重罪ニ照準シ較マ重キ重罪

ノ刑ヲ擬セララルヘキ罪犯ニ涉ラサリシ片ハ
偽造罪犯ニ依テ論シ六ヶ月ヨリ多カラサル
禁獄或ハ二年ヨリ多カラサル工役場ノ刑ニ
処セララル可シ
公然ノ証書若クハ公然ノ證書ヲ記載ス可キ
為メ備ヘシ紙ヲ更換スルトニ就テ上項ニ記
載セシ種類ノ所行ヲ犯スニ涉リシ片ハ其刑
ヲ増加シテ三年ヨリ多カラサル工役場ノ刑
ニ処セララル可シ

「ハツセン」 千八百四十一年九月十七日ノ

刑法

第三百八十五條 凡ソ他人ニ損害ヲ加ヘンカ

為ノ自己又ハ某人ノ為ノ不正ノ利益ヲ營
マシカ為メニ書類若クハ証書ヲ贗造シ又ハ
偽リノ署名若クハ偽リノ印章ヲ載セ或ハ偽
造書類ヲ製スルニ當テ真正ノ印章ヲ取用シ
又ハ其他ノ偽造証書ヲ故ラニ取用シ或ハ文
辭綴字數字句讀等ヲ變休シ附加シ抹却シ或
ハ其他ノ方法上ニ於テ真正ノ書類若クハ証
書ヲ不具不整ノモノト為シ而メ如此ノ偽造
若クハ贗造ノ書類及ヒ証書ヲ取用シタル者
ハ偽造証書ノ罪犯ナリトス

第三百八十六條 本條ハ偽造証書ニ就テノ刑
ヲ確定セルモノナリ
第三百八十七條 又前條ニ記載シタル制定ニ

依テ擬決セララル可キモノハ甲人ニ損害ヲ加
ヘ或ハ自己又ハ乙人ノ為メニ不正ナル利益
ヲ營マシカ為メ偽造証書若クハ偽造書類(但
シ犯者自カラ作為セルモノニハ非レ其贗
偽ニ依テ作為シタルモノ)ナルヲ了然辨知
シテ取用シタル者ナリトス
上項ト同刑ニ處決セララル可キ者ハ某人ニ損
害ヲ加ヘシカ為メニ法ニ背キ有用ノ証書ヲ
滅却シ或ハ壓害セルモノナル可シ

チエーリン、キシユ、スタール
十九年ノ刑法 千八百四

第二百五十二條 凡ソ偽造証書ニ官署ノ名ヲ

題シ或ハ真正ナル公証書若クハ公然ノ確証ト為ル可キ私証書ヲ贋造シ若クハ妄ニ滅却シ若クハ不可用物ト為シ若クハ隱藏シ或ハ偽造若クハ贋造シタル公証書ヲ取用スル者若シ如此ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ為メニ利益ヲ營マシガ為メ或ハ某人ニ財産ノ損害若クハ其他ノ損害ヲ加ヘニカ為メニ右等ノ所行ヲ為シタル片ハ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄又ハ二年ヨリ多カラサル工役場ノ刑ニ処セララル可シ

第二百五十三條及ヒ第二百五十四條 此兩條ハ第二百五十二條中ニ確定セシ偽造証書ノ罪犯ノ重キ場合ニ就テ其刑ノ制定ヲ論シタルモノナリ

二條を以て後

第二百五十二條 凡ソ自己又ハ某人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ何事ヲ論セス他人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ己レノ関預ス可キ権理ナキ私証書ニ他人ノ姓名ヲ題シテ之ヲ作為シ或ハ真正ナル私証書ヲ贋造シ滅却シ不可用物ト為シ又ハ隱藏シ或ハ偽造若クハ贋造セシ私証書タルヲ知リナカラシラ取用スル者ハ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄或ハ一年ヨリ多カラサル工役場ノ刑ニ処セララル可シ

「ヲルデングブルグ」 千八百五十八年七月

三日ノ刑法

第百五十二條を以て
疑フ

題シ或ハ真正ナル公証書若クハ公証
ト為ル可キ私証書ヲ贋造シ若クハ
シ若クハ不可用物ト為シ若クハ隠
偽造若クハ贋造シタル公証書ヲ取
若シ如此ノ場合ニ於テ自己又ハ他
ニ利益ヲ營マシガ為メ或ハ某人ニ
害若クハ其他ノ損害ヲ加ヘニカ為
ノ所行ヲ為シタル片ハ六ヶ月ヨリ
ル禁獄又ハ二年ヨリ多カラサル工
ニ処セララル可シ

第百五十三條及ヒ第百五十四條
ハ第百五十二條中ニ確定セシ偽
罪犯ノ重キ場合ニ就テ其刑ノ制定
ルモノナリ

第百五十二條 凡ソ自己又ハ某人
利益ヲ營ミ或ハ何事ヲ論セス他人
加フルノ目的ニ於テ已レノ関預ス
ナキ私証書ニ他人ノ姓名ヲ題シテ
シ或ハ真正ナル私証書ヲ贋造シ滅
用物ト為シ又ハ隠藏シ或ハ偽造若
セシ私証書タルヲ知リナカラ之
ル者ハ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄
ヨリ多カラサル工役場ノ刑ニ処セ

「ヲルデンプールダ」 千八百五十
三日ノ刑法

第二百三十條 第二百三十一條 第二百三十二條
第二百三十五條 此ノ四條ハ又辭上全ク普
國刑法書ノ第百四十七條 第百四十八條
第百四十九條 及ヒ第百五十二條ト同一
ナルモノナリ

ハムブルグ 千八百六十九年四月三十
日ノ刑法

第百七條

印紙、公証書及ヒ其他ノ偽造罪

凡ソ自己又ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ
乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ偽造ノ印
紙、公証書、關票會籤ノ番号及ヒ印章詐偽ノ捺

印公証ト為ル記号ヲ備エシ偽造ノ尺度若ク
ハ重量ヲ摸製シ又ハ真正ナルモノヲ贗造ス
ル者或又其他偽造若クハ贗造セシモノヲ右
ノ如キ目的ヲ以テ取用スル者ハ八年ヨリ多
カラサル徒刑ニ有期ノ民權剝奪ヲ加ヘ以テ
処セラル可シ但シ其輕キ場合ニ在テハ禁獄
ノ刑ニ処セラル
凡ソ上項ノ目的ナシニ旅行切手、免狀、渡り職
人ノ確証切手又ハ之ト同シキ公証書ヲ偽造
シ贗造シ又ハ如此ノ証書タルヲ了知シテ
之ヲ取用スル者ハ六ヶ月以内ノ禁獄又ハ二
百ターレルヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル
可シ

第百八條

前條ニ論シタル重罪ヲ犯スノ器具ヲ裝置スルノ罪

凡ソ偽造金貨ノ重罪所行又紙幣印紙若クハ公証書ノ偽造ヲ為スノ目的ニ依テ極印若クハ其他此ノ目的ヲ達スルニ必要ノ器具又ハ其物品ヲ製造シ調理シ或ハ購求シタル者ハ仮令其物具ヲ未タ敢テ实用セサルモ一年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ処セララル可シ

第百九條

官署ヲ欺クノ罪

凡ソ自己又ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ官署官吏

若クハ公証人ヲ誑誘シテ無根事實ノ確証ト為ス者或又之ト同シキ目的ニ於テ贋偽ノ確証タルヲ了知シテ之ヲ取用スル者ハ二年ヨリ多カラサル羈絆ノ刑ニ処セララル可シ上項ノ如キ目的ナシニ官署官吏或ハ公証人ヲ誑誘シテ了然辨知セシ無根事實ノ確証ト為ス者ハ六ヶ月以内ノ禁獄或ハ二百タールヨリ多カラサル罰金ヲ科セララル可シ

第百九十二條

私証書ヲ偽造スル事

凡ソ自己又ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ財産ノ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ私証書ヲ贋造シ偽造シ且ツ之ヲ取用スル者或

ハ之ト同シキ目的ニ於テ贋造若クハ偽造セシ証書タルヲ了知シ之ヲ取用スル者ハ尤ノ如ク処決セラル可シ

第一款 八年以内ノ徒刑ニ処セラル可

キモノハ偽造罪犯ノ金高五十「タ」レ「ル」以上ニシテ且ツ左ノ所行ニ涉リタル片ニ在リ即チ

(イ) 債主ニ對シ借用証書ヲ贋造シ又

ハ偽造シ或ハ株金証券并ニ之レ

ニ代用ス可キ証券又ハ請求書又

ハ右ノ証券ニ附属シタル利子又

ハ書換証書ヲ贋偽セシ片

(ロ) 為替手形、金錢引替証券、金錢渡方

ノ添書郵船荷物送り状、商賣帳簿又ハ遺囑書

(ハ) 犯者ノ職務ハ及令ヒ公然及ヒ官

任ノモノニ非ルモ官署ニ對シ其

職務ノ誓盟ヲ為スニ當リ詐偽ノ

罪ヲ犯シタル片

第二款 二ヶ月ヨリ少カラス五年ヨリ

多カラサル羈絆ノ刑ニ処セラル可キ

モノハ即チ

(イ) 若シ第一款中ノ(イ)ヨリ(ハ)ニ至ル

マテ掲載シタル一箇ノ情狀判然

發露シテ贋偽罪犯ノ金高五十「タ」

「レ」以上ニ至ラザル片

ハ若シ右一箇ノ情状判顯然發露ス
ルナクメ贗偽罪犯ノ金高五十
タール以上ニ超ヘタル片

第三款 諸テ前款ニ掲ケタル外他ノ場
合ニ在テハ禁獄ノ刑或ハ三百タール
ヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可
シ

凡ソ罪ヲ擬律スルニ当テハ必ス釀成セシ損
害若クハ略取セシ利益ニ能ク注意ス可キモ
ノナリトス

凡ソ偽造罪犯ト同視スヘキモノハ自己若ク
ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害
ヲ加フルノ目的ニ於テ某人ノ姓名ヲ手署シ

タル紙上ヲ其許諾ヲ受ケスシテ塗抹シ而メ
此ノ如キ証書ヲ实用スルモノナリトス

第百九十三條

罪ヲ犯スノ装置ヲ為スノ所行

前條第一款中ノイロ中ニ掲ケタル私証書ヲ
偽造スルノ目的ヲ以テ極印若クハ其他須要
ノ物品ヲ製造シ調理シ又ハ購求シタル者ハ
及令其物具ヲ未タ取用セサルモ禁獄ノ刑ニ
処セララル可シトス

パエールン 千八百六十一年十一月十日

ノ刑法

公証書ヲ偽造シ及ヒ障害スルノ罪并ニ

公然ノ金錢引替証券ヲ偽造スルノ罪
第百七十六條 法ニ背キシ偽計ノ目的ニ依リ

公証書ヲ更製シ或ハ己レノ関預ス可キ権理
ナクシテ公然ノ確徴ヲ以テ証書ヲ作為スル
者ハ公証書偽造ノ罪犯ナリトス

右ト同シキ目的ヲ以テ偽造セシ証書タル
ヲ了知シテ之ヲ実用スル者ハ第百八十六條

(公然ノ金錢引替証券ヲ偽造シ若クハ其偽造
タルヲ了知シテ之ヲ費用スルヲ除クノ

外ハ偽造罪犯者ト同般ノ刑ニ処セラル可シ
第百七十七條 凡ソ公証書ト見做スヘキモノ

ハ(第百七十六條

第一款) 國手及七宰相ノ修製セシ証書

即チ國政事務ニ関シ或ハ貴重ノ權利
若クハ權利對稱ノ確証トシテ切ナル國王及七宰相
ノ印及本々ノ証書

第二款 政府及ヒ政府ノ官吏或ハ其他

公任ノ吏員若クハ公立ノ民署等ニ於
テ修製シ若クハ整備シ若クハ確徴
為シ(官公署ノ印及本々ノ証書)又ハ在任ノ吏員上ノ証書ニ算
入ス可キ諸種ノ証書等トス

詐欺

第百十六條 罰金ヲ連帶スル禁獄ノ二ヶ月

以上ニ処刑ス可キ詐欺ノ罪犯ハ左ノ所行ヲ
犯シタル片ニ在リトス

第一第二第三ハ此ニ之ヲ畧ス

第四公私ノ証書ヲ偽造スルノ所行ヲ為ス
ス片

第三百十七條 第三百十六條中第四款ニ云ヒシ如キ私証書トシテ了得ス可キモノハ公証書ニ算入ス可ラサルモノニ私民ノ修製セシ權利若クハ權利對稱ノ確証ニ就テ最モ貴重ナル証書ヲ指シテ云フ

第三百十八條 私証書ノ偽造罪犯ハ左ノ所行ニ涉リタル片ナリトス

第一 私証書ヲ偽造シテ某人ノ之ヲ筆シ若クハ其姓名ヲ手署セシ如ク為シタル片

第二 前ニ述ヘシ種類ノ真正ナル証書

ラ已レノ関預スヘキ權ナクシテ更製シタル片

偽造罪犯ト同視スヘキモノハ偽造ノ証書タルヲ了知シテ之ヲ取用スル者ナリトス

ブレーメン 千八百六十八年ノ草案

第四百二十九條 自己又ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ若クハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ公証書若クハ私証書ヲ偽造シ又ハ贋造シ且ツ不法ナル詐欺ノ目的ヲ以テ右ノ如ク偽造シ又ハ贋造シタル証書ヲ取用スル者ハ偽造証書ノ罪犯ナリトス
公証書ト見做スヘキ書類ハ官署官吏若クハ

其他ノ公任ヲ擔當セル吏員等ヨリ整備シ修製シ又ハ確証ト為シタルモノヲ指シテ云フ私証書ト見做ス可キ書類ハ權利及ヒ義務若クハ其行止ノ為メ最モ貴重ナル書類ヲ除クノ外諸テ私民ノ修製シ又ハ其姓名ヲ手署シタル私ノ書類ヲ指シテ云フ

第四百三十條 凡ソ偽造罪犯者ト同視スヘキモノハ左ノ如シ

第一款 自己又ハ甲人ノ為メニ財産ノ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ公証タル確徵ヲ備エシ紙面若クハ某人ノ印ヲ捺シタル紙面ニ偽書シ而メ法ニ背ケル目的ヲ以テ

右ノ如ク偽書セシ公証書ヲ取用スル者

第二款 前ト同般ノ目的ヲ以テ私民ノ姓名ヲ手署シタル紙面ニ偽書シ因テ之ヲ私証書ト為シ而メ不法ナル目的ノ為メニ其証書ヲ取用スル者

第三款 或ハ偽造シ或ハ贋造シ或ハ詐欺ノ方法ヲ以テ修製シタル公私ノ証書タルヲ了知シテ自己又ハ甲人ノ為メニ利益ヲ營ミ若クハ乙人ニ損害ヲ加フルノ故意ニ出テタル詐欺ノ目的ニ依リ其証書ヲ取用スル者

ヲースタリマ 千八百六十七年ノ草案
第百六十八條 凡ソ公私ノ証書ヲ

第一 贋造シタル者

第二 虚捏セシ條件ヲ以テ之ヲ修製セシ者

第三 真正ナル証書ノ條件又ハ必要ナル記号ヲ变换シテ真正ノ証書ヲ偽造ノモノト為スヲ企テタル者

第四 右ノ如キ贋偽ノモノタルヲ了知シテ之ヲ取用スル者

右ノ罪ヲ犯セシ者ハ偽造証書ノ輕罪ナリトス

第百六十九條 偽造証書ノ罪犯ト見做ス可キ

モノハ

第一 既ニ修整セシ証書中ニ他ノ手署姓名ヲ浪リニ附加スル丁

第二 止タ他人ノ手署姓名ノミヲ整備セシ紙面ニ載ス可キ為メ定メタル條件ヲ書セスシテ他ノ條件ヲ書スル丁

第三 他人ノ姓名ヲ手署シタル証書若クハ他人ノ所有ナル物品ノ記号又ハ職業家ノ符号(板師ノ記章、番号、圖号)製造場ノ標号及ヒ物品ノ記号ヲ贋造スル丁

千八百六十六年ノ草案

第百八十四條 不法ナル故意ヲ以テ所有主ノ固
有物ニ非ル公証書ヲ偽造シ或ハ真正ナル公
証書或ハ公證ト為スヘキ私証書ヲ贗造スル
者ハ公証書ヲ偽造スルノ罪犯ナリトス
此重罪ト同視スヘキモノハ某人ノ推利ヲ害
スルノ故意ニ出テ偽造証書タル丁ヲ了知シ
テ之ヲ取用スル者ナリトス

第百八十五條 凡ソ詐欺罪犯若シ左ノ所行ニ
依テ犯シタルニ涉ル片ハ詐欺重罪犯ト為シ
而シテ其損害五百「タ」レ「ル」若クハ以下ノ総計
ナルニ於テハ五年ヨリ多カラサル徒刑并ニ
工役場ノ刑或ハ二千「フ」ラ「ン」ク「」以内ノ罰金ヲ
連帶セル禁獄ノ刑ニ処セララル可シ

第一款 或ハ贗造シ或ハ偽造シタル公
然ノ極印或ハ之ト同シキ標号或ハ偽
造ノ尺度或ハ偽造ノ重量タル丁ヲ了
知シテ之ヲ取用スル丁

第二款 私証書ヲ偽造シ滅却シ不可用
物ト為シ障害シ竊取スル丁或ハ第百
八十九條第四款ノ場合ル義務ヲ損害ス
ル禁獄或ハ工役場ノ刑ヲ以テ決セサ
ラシラ除クノ外右ノ如キ偽証書タル
丁ヲ了知シテ之ヲ取用スル丁或ハ他
人ノ姓名ヲ手署シタル紙面ヲ其委任
サレシ目的ヨリ移シテ他ノ目的ニ使
用スル丁

第百八十六條 第百八十五條中第二款ノ趣意

ニ基キタル私証書トシテ認得ス可キモノハ
私民ノ修製ニシテ官吏ノ調印ヲ為サ、ル証
書或ハ官吏ノ保護中ニ在ル証書且ツ權利及
ヒ權利對稱ノ為ノ最モ必要ナル証書等是レ
ナリ

各國刑法比較纂集

第十八

各國刑法比較纂集

同
書
書

各國刑法比較纂集

第三十篇

分散

刑ロイセシ 千八百五十一年四月十四日
ノ刑法

第二百五十九條

凡シ商人船頭又ハ制作場主

其拂ヒ金ヲ淹滞シタ^{モル}左ノ所行ニ涉リタ

ル者ハ詐欺分散ノ罪犯トシテ十五年^{以下}多

クサ^ル徒刑ニ處^スル可シ

第一款 已レカ財産ノ全部若クハ幾分ヲ

隱藏シ或ハ他方ニ殺シタル片

第二款 負債即チ義務ノ全部若クハ其一

部ヲ虚捏シテ之ヲ^中歷陳^{シタル片}

第三款

已レノ債主ニ損耗ヲ負ハシムルノ趣^{故意}做^{シテ}法律上定例^ハノ商賣帳ノ記載或ハ已レカ^ノ職業^ノ性質^上從ヒ必須ナル高賣帳ノ記載ヲ拋棄シタルキ

第四款

若シ前ト同様ノ趣^{故意}做^{シテ}商賣帳ヲ隱藏シ又ハ滅却シ又ハ其帳ヲ以テ財產高ノ見込ヲ立ル能ハサル如ク^{其帳}記載シ若クハ變態シタルキ

若シ酌量輕減スヘキ情状ヲ判然審定シタル

キハ三ヶ月^{以上}少カサレ禁獄ノ刑ニ處セ^ルヲ^可シ^テ而^{シテ}同時ニ或^ハ期間^中民権^を行使^スヲ^可シ^テ

人禁^止ノ料^をスルヲ得^ルハシ

第二百六十一條 凡^ソ商人船頭又ハ製作場主^所

其拂ヒ金ヲ淹滞シタル者左ノ所行ニ涉リタル

ルキハ平常分散ノ罪犯ト^{シテ}二年^{以下}ヲ^可シ^テ

ヲ^可シ^テ禁獄ノ刑ニ處^スラル^ル可^シ

第一款

奢糜^ノ冗費^ノ賭博^ノ或ハ商品若クハ相場會社^ノ為替証券ヲ以テスル相場^ノ營業ニ依テ過大ノ金額ヲ費耗シ或ハ負債ヲ為シタルキ

第二款

法律上條例^ヲ以テ揭^示セ^ルトシ^テ高賣帳ノ記載或ハ已レカ^ノ職業ノ性質ニ從ヒ必須ナル高賣帳ノ記載ヲ拋棄シタル

ルキ或ハ右ノ帳簿ヲ隱藏シ若クハ滅却

シ若クハ其帳ヲ以テ財產高ノ見込ヲ立

ル能サル如ク^浪記載シタルキ

第三款 法律上ノ定例若クハ已レカ職業ノ性質ニ從ヒ缺ク可ラサル毎歳ノ財産出入高及ヒ其較計差異ノ決算ヲ拋棄シタルハ

第四款 若シ^{最終}財産出入高較計差異ノ決算ニ從ハハ^{所有ノ財産負債高ノ二分一ヲモ償フニ足ラズル限此}尚ホ新キナル負債ヲ^{作シ}或ハ物品若クハ金錢^列替証券ヲ不当ノ低價ニ賣却シタルハ

第二百六十二條 凡ソ牙會者又ハ公証人商業ヲ營ミタルハ若シ其拂ヒ金ヲ淹滞シテ此篇中ニ掲ケタル所行ノ罪ヲ犯シタルハ商人船頭等ト同般ノ刑ニ處スル可シ

サツキセニ 千八百六十八年十月一日改正ノ刑法

第三百四條 凡ソ詐欺分散ノ罪犯ハ即チ左ノ所行ニ涉リタル者^{ハ詐欺分散ノ罪犯}

第一款 眞實若クハ口實ニ出テタル不能還償ヲ已レノ^{見込}ヲ以テ申立テ或ハ已ニ裁判上若クハ裁判外^{ニ其申渡ヲ受ケタル}得^ニ当リ或ハ債主ニ盡ス^ルモ義務ヲ^成遂ケ^ルカ^為メ^ニ裁判上ノ所行ヲ待ツ際ニ於テ左ノ所行ニ涉ルモノ即チ何レノ方法ヲ論セス債主ノ全負若クハ其中重立チタル債主ニ満足ヲ得セシム

へキ為メニ充備セシ現品ノ全部若クハ一部ヲ不法ニ隠藏シ或ハ賣却シ或ハ漫ニ他人ニ投興スル等ノ所業ヲ為シタル者

第二款 已レノ財産ニ就テ身代限ノ着手ヲ受ケタル後債主ニ損耗ヲ負ハシメンカ為メニ身代限ニ係ル物品ノ全部若クハ其一部ヲ不法ニ処分スル者

凡々他ノ債主ニ先タテ債主ノ一名ノミニ全償スルヲ以テ不法ナリトシ此篇中ノ旨趣ト同視スベキモノナラハ其債主ニ還償スベキ負債高ヨリ過剩ノ金ヲ興へシキ或ハ詐欺ノ義務ヲ設為シ以テ全償ヲ成シタルキ或ハ身代

第三百五條 詐欺分散ノ刑

凡ソ詐欺分散ハ四年^{以下}刑若クハ徒刑ニ處セラル可シ情ヲ知テ詐欺表誠^偽誓ヲ為^レテ即チ身代限充備^ノ物類ニ害ヲ加フル為メニ詐欺ヲ行フノ場合^{ニ在テハ六年以下ノ徒刑}

第三百六條 輕犯ノ場合

凡^ノ家什ヲ他方ニ移シ或ハ常費若クハ活計ノ為メニ僅少ノ金員ヲ他方ニ移シタルキハ二年^{以下}刑多カクサレ禁獄ノ刑ニ擬セラル可シ但シ其債主ノ呈訴ヲ待テ其刑ニ處セラル可キモノトス

見 似

第三百七條 輕率ノ分散

凡シ過度ノ冗費或ハ不法ノ家政或ハ成不成
ヲ徒期シ已レノ財産ニ應セサル事業ヲ起シ
或ハ之ニ類似セル所行等ニ依テ過大ノ負債
ヲ醸成シ而シテ身代限ヲ致シタル者ハ六ヶ月
以上ノ多カラスル禁獄ノ刑ニ處セラル可シ但
シ此ノ場合ニ於テ犯者其刑ヲ免宥セラルハ
キモノハ判事ノ裁量ニ依リテ之ヲ申立タ
ルハ在リトス

第三百九條 輕卒ノ負債

凡シ某人未タ分散ニ至ラサル前又ハ詐欺分
散ノ預算ヲ企テシニ非スノ只タ輕卒ニ出テ
負債ヲ為シタルカ為メ債主ニ損耗ヲ負ハシ
メタルハ其債主ノ呈訴ヲ待テ六ヶ月以上
尋ナラサル禁獄ノ刑ニ處ス可シ

第三百十條 身代限ノ物品ヲ陰掠スル

凡シ詐欺分散ノ外既ニ身代限ニ迫ツテ債主
ニ損耗ヲ負ハシメンカ為メニ財産ノ一部分
ヲ賣却シ又ハ他方ニ移シ或ハ既ニ身代限ニ
陥リタル後同上ノ目的ニテ既ニ封印ヲ為シ
タル物品ヲ處分スル者ハ債主ノ呈訴ヲ待テ
之ヲ四年以内ノ禁獄或ハ二年以下ノ勞力ヲ
シ工役場ノ刑ニ處ス可シ

千八百四十一年九月十七日ノ

刑法

司法

第三百八條 (重)
キ場合
乙ニ不能還償ヲ
了知セシ後不正
ノ記簿ヲ為シ又ハ
掛買等ヲ為ス

第四百二條 凡ノ正ニ身代限ニ迫リ若クハ既ニ其申渡ヲ受ケ或ハ不能還償ノ際ニ方リ詐欺ノ所行ニ依テ他ノ債主ニ先タチ止々債主ノ一名ニ掃算ヲ為シ或ハ債主ニ損耗ヲ負ハシメンカ為メニ金錢若クハ有價ノ物品ヲ隠藏シ或ハ他方ニ移シ或ハ貸金ヲ黙秘シ或ハ陰ニ貸金ヲ請取リ或ハ陽ニ債主ヲ設為シ或ハ其他詐欺ノ方法ヲ以テ負債高ヲ増大ニ為シタル者若シ商人兌換商又ハ製作場主等ニアラス右論行分散ノ罪(第四百三條)ヲ犯シタルハ第四百二條詐欺取財ノ罪犯ニ擬スハモ制定ニ照準シテ處決セラレ可キモ不能還償ニ至リス

第四百三條 凡ノ商人兌換商又ハ製作場主不能還償ノ機ニ至リタルモハ若シ左ノ場合ニ在テ債主ニ對シ全ク故意詐欺又起做行ハ非ルヲ確定シ得ハキ情狀ヲ判然トササルニ於テハ詐欺分散ノ罪犯ナリトス即チ(六條)場合

凡ノ詐欺分散ノ罪犯ト同視スハモハ商人兌換商又ハ製作場主延期條約ハ為シ其債主ニ損耗ヲ負ハシムルノ目的ヲ以テ不能還償ヲ偽陳シ而チ延期條約ヲ取結ビタルキハ詐欺分散ノ罪犯ニ不能還償ニ至リス

第四百四條 凡ツ商人兌換商又ハ製作場主逕金ヲ為シ得サレトモ現況ニ至リ左ノ場合ニ掲載セ小所行ノ罪ヲ犯シタルハ平常分散ノ

罪犯ヲ見做ルニ即チ(五款)ノ場合

メツクレンブルグシツエーリン

詐欺及ヒ輕卒分散ノ罪ニ就テ千八百五十九年七月十二日ノ布令

(甲) 詐欺分散

第一條 凡ソ詐欺分散ノ罪犯ハ身代限ノ形

態ニ陥リ依テ左ノ所行ヨ罪ヲ犯シタル者ハ詐欺分散ノ罪トス

第一款 詐欺ノ目的ニ依リ債主ニ對シ不

態還償ヲ偽陳シ而シ身代限ヲ行ハン

ヲ申告シ若クハ身代限ノ着手ヲ告ケタル

片

第二款 身代限着手ノ前若クハ其後ニ至

リ債主ニ損耗ヲ負ハシムルノ故意ニ由

テ已レカ財産ノ全部若クハ其一部ヲ掠

メ或ハ身代限着手前ニ其財産ヲ隱藏シ

タルキ即チ且箇ノ場合(此ニ對ス)

第三款 (既ニ顯然過大ノ負債ヲ負ルニシテ)

若シ他日新債主ノ請求ヲ受ケルキハ之

ヲ騙欺トシキノ故意ヲ以テ新キハ負債

ヲ作りタルキ

第四條 若シ左ノ所行ヲ為スニ涉リタルキハ

詐欺分散既行未成ノ罪ト同般ノ刑ニ處セ

ル可シ

第一款 負債者已レノ財産高ヲ了知シテ

之ヲ偽陳シ因テ諸債主若クハ其一名ノ損害ト為ル和解ノ計策ヲ施シタル中而
モ仮令ヒ其和解ノ計策ヲ其債主ノ承諾
セサルキト在テモ亦同シトス

第二款

負債者既ニ身代限ニ迫リタルニ
方リ其債主ニ損耗ヲ負ハシムルカ為メ
ニ財産ノ一部分ヲ賣却シ若クハ他方ニ
移シ若クハ偽約ヲ結ビ若クハ其他ノ不
正ナル方法ヲ施シ以テ身代限ニ係ル物
品ノ或ル部分ヲ略取シ又ハ略取セント
為シタルキ

(乙)

第九條

一名ノ債主ニ損耗ヲ負ハシムル丁
九リ已レノ財産及ヒ収入物ニ對比全

ク不衡平ナル雜費又ハ成不成ヲ徒期シテ現
然其財産不相当ナル事業又ハ已レカ職業ノ過
大ナル怠惰又ハ賭博勝負ノ損耗又ハ此ト類
似セル方法上ニ出テタル不能還償等ニ依テ
負債ヲ依テ而ノ身代限ニ陥リタル者ハ輕卒
ナル身代限ニ依テ論シ之ヲ四週間以上二年
以下ノ禁獄ニ處ス可シ

チユーリンギシエスターテン 千八百四十
九年ノ刑法

第二百四十二條

凡ソ過剩ノ雜費又ハ自己營
業ノ怠惰又ハ不法ナル家政又ハ已レカ財產
ト對比極メテ不相当ナル行為ニ因テ債主

ニ損耗ヲ負ハシメ而シテ裁判上身分限ヲ受ケタル負債者ハ六ヶ月ヨリ少カラサル禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二百四十三條 凡不能還償者又ハ裁判上身分限處分ヲ受ケル商人、銀行主、兌換舖主、製造場主又ハ其他ノ商業者(左ノ所行ニ涉リタルキハ八週間以上)少カラズ一年ヨリ少カラズ禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第一款 不能還償ニ就テ職業廢止スル前末ノ二年間ニ勅出^{決算表}入物^{決算表}較計ノ決算ヲ為スルコトヲ命ジル可シ

第二款 已レハ職業ノ為メ法律若クハ高業常習ニ照ル^{照ル}必須ナル帳簿ノ記載ヲ放

棄シ若クハ其帳簿ニ依テ已レノ財産及ビ負債高ヲ認了シ得ヘカラサル如ク規則ニ記載シタルキ

第三款 已レハ不能還償ノ預知^{預知}シテ尚ヲ

借用物即チ物品ヲ信約上ニテ買取り(表^表品^品ヲ^ヲ現^現金^金拂^拂取^取ル^ルヲ^ヲナ^ナス^スフ^フ)又ハ已レノ破産ヲ債主ニ明言^{明言}シテ之ヲ熟知^{熟知}セシムルコトヲシ、其他ノ負債ヲ為シタルキ

第四款 本能還償ノ種類ニシテ一ニハ先

ツ特殊ナル負債(已レ借^借用^用本^本業^業ヲ^ヲ營^營ム^ム特^特殊^殊ノ

類ナル恩借^{恩借}ノヲ引去^{引去}ワシテ後チ通常ノ負債

細^細用^用セ^セル^ル費^費用^用ヲ^ヲ為^為ス^スハ^ハ百^百キ^キ就^就テ^テ五十

一^一即^即チ^チ金^金高^高モ^モ同^同ニ^ニシ^シテ^テモ^モ還^還償^償ス^スル^ル能^能ハ^ハス

或又ハ偶々ニシテ如クハ災難ニ罹リ因テ不能還償
ニ至リタルモ情状ヲサモ明カニ速ニ得ル
能ハズモノナルキ

第二百四十四條 凡ソ不能還償者其不能還償
ヲ自キ預知シ而シ其債主ヨリ既ニ裁判上
ニ請求イ申立ヲ受ケレモノ或ハ既ニ裁判上
ニテ身代限處分ノ着手ヲ被リシモ不能還償者若シ左
ノ所行ヲ犯シタルキハ六年ヨリ身カラサル
工役場刑若クハ徒刑ニ處セラル可シ

第一款 債主ヲ掠メテ其財産ヲ已レノ私
有ト為サンカ為メニ之ヲ秘包シ(現存物
ト秘謂フテ無類シ)又ハ隱蓄シ(物品ノ障
ト云ルヲ)又ハ他人ノ保有物ト為シ又ハ他

方ニ轉搬スルキ或ハ同般ノ目的ニ依リ
他人ノ名目ヲ以テ金錢ヲ貯藏シ若クハ
他人ノ名目ニテ物品ヲ購求シ若クハ貸
金ヲ陰カニ請取ルキ

第二款 法ニ背キ止タ債主ノ一名ニ還償
ノ満足ヲ得セシメ又ハ贈物ヲ為シ又ハ
貸金ヲ放免シ又ハ借ラサル金ヲ拂ヒ又
ハ財産ノ或ル部ニ低價ニ賣却スルキ

第三款 債主ニ損耗ヲ負ハシムルカ為メ
ニ財産現存高ヲ記載スル為ニ方リ貸
金若クハ負債ヲ虚捏シ若クハ黙秘スル
或ハ又同般ノ目的ニテ出費損失及ヒ
不幸ヲ偽設スルキ

第二百四十五條 若シ商人、銀行主、兌換舗主、製
作場主或ハ其他ノ商業者前条中ノ初項ニ掲
載シタル預^原由^中ニ在^テ已レノ委託ヲ受ケシ
物品、金錢若クハ紙幣ヲ自己ノ費用ニ消尽シ
或ハ已レノ商賣帳若クハ其他職業規則ニ就
テ缺クヘカラサル必要ノ紙行ヲ隱藏シ又ハ
滅却シ又ハ偽造シ或ハ商賣帳ヲ遺シ置カス
若クハ紛雜ナル商賣帳ヲ遺シ置ヒテ遁^込シ
或ハ已レノ宿所ヲ隱蔽スル等ノ事ヲ為シタ
ルキハ一年^{以下}ノ量^{以下}カラサル工役場刑又ハ六
年^{以下}ヨリ多カラサル徒刑ニ処セラル可シ
或ハ又之ト同一刑ニ処決セラル可キモノ
ハ^右各人^{和解}ニ依リ其債主ニ損耗ヲ負ハ

シムルノ目的ヲ以テ不能還償ヲ偽陳シタル
片ニ在リハ前及ト同刑ニ処スル此場合ニ在テハ
債主ノ申^事新^テ待^テルケ^テ処^分ス^ル
アラ^ハラ^ン、シユウワイグ^ル 分散重罪ニ就テ千
八百六十三年九月十五日議定セシ法律

第一條 詐欺分散

凡ソ眞実ナル不能還償若クハ詐偽ナル不能
還償ヲ歷陳セシ負債者其債主ニ損耗ヲ負ハ
シメンカ為メ詐欺ノ所行ヲ企テ殊ニ左ノ所
行ニ涉リタルモノ即チ

(イ) 已レノ財産ニ就テ必要ナル帳簿ノ記

載ヲ放擲シ又ハ已レノ宿所ヲ隱蔽シ又

ハ商人(商法第四條)タル者前ニ記載セシ

目的ノ為メニ法律上(高法第二十八條)乃
至三十三條)缺クベカラサル緊要ノ商賣
帳及ヒ抄寫簿ノ記載若クハ家什目錄及
ヒ輸出入物較計決算ノ製表且ツ右ノ帳
簿及ヒ表又ハ収手セシ商用局翰ノ保持
等ヲ全ク若クハ^{一部}ノ廢棄シ若クハ^條
例ノ通式及^其時間中ニ右等ノ事ヲ拋棄
シ或ハ書載セシ帳簿及ヒ書類ノ全部若
クハ其幾分ヲ滅却シ隱藏シ偽造シ若ク
ハ紛雜ノ記載ヲ為シテ之ヲ遺シ置キタ
ル者

(ロ)

財産、或ハ部分ヲ隱藏シ商品、家什若
クハ金貨ヲ隱藏シ或ハ他人ノ保有物ト

為シ或ハ他人ノ名ヲ假リ以テ金貨ヲ貯
藏シ或ハ負債高ヲ増大ニ揚言シ或ハ借
ラサル金ヲ還償シ或ハ^{法上}止メ債主ノ一名
ニ還償ノ満足ヲ得セシメ或ハ貸金ヲ陰
カニ請取り或ハ贈物ヲ為シ或ハ商品若
クハ相場會社ノ証券ヲ低價ニ賣却シ或
ハ為替証券若クハ私ニ係ル書入^債証書
ノ月日ヲ書換エ或ハ詐欺ノ手附金若ク
ハ詐欺ノ紙幣ニ依テ信約上物ヲ掛買ス
ル等ノ者

右ノ所行ヲ為セシ者ハ左ノ如ク處決セラレ
可シ即チ

第一 債主ニ負ハシメタル損金高五百円

一レル以上ニ至ルキハ徒刑

第二 債主ニ負ハシメタル損金高三十ノ

一レル以上ニ至ルキハ一年略少カラ

ナル徒場若使驅役ノ刑

第三 其他ノ場合ニ在テハ一年略少カラ

ラサル徒場驅役ノ刑

(イ)号中ニ記載セシ場合ニ在テハ債主ニ負ハ

シメタル損金ノ全額ヲ以テ詐欺ニ依リ得タ

ル金高ト見做シ而シテ(ロ)号中ニ記載セシ場合

ニ在テハ本号中現論述セシ所行ノ各個ニ

依リ債主ニ負ハシメタル各總計ヲ以テ詐欺

ヨリ得タル金高ト見做スヘキモノトス

第二條 輕卒分散

凡ソ左ノ所行ニ涉リシ者若シ其所行ニ因テ

萌生セシ損害ノ金高五百タ一レ以上ニ至

リタルキハ一年以外ノ禁獄其他ハ一年以内

ノ禁獄ニ處刑セラル可シ即チ

(イ) 已レカ収入不相對比全ク不衡平ナル

活計上必要外通過冗費或ハ成不成ヲ徒期

シ已レカ財産ト對比全ク不相当ナル

行事ニ依テ債主ニ損耗ヲ負ハシメタル

者並ニ不能還償ノ商人(商法第)商賣帳及

ヒ抄寫簿ノ記載又ハ家什目錄及ヒ輸出

入較計決算ノ製表又ハ此帳簿及ヒ表並

ニ領収セシ商用書翰ノ保持等ニ係義務

(商法第二十八條乃至三十三條)ノ全部又

ハ其一部若クハ條例通式及ヒ定法時間
中^ニ 拋棄シタル者

(ロ) 還償ノ義務ヲ全ク尽シ得サルコトヲ諒
知シ得ルハ又ハ必ス之ヲ諒知^ス得ルハ
時^ニ方^リ已^レカ財産ノ現状如何ヲ熟知
セサル人ニ對シ新タニ負債ヲ為シタル
者

(イ)号中ニ記載セシ場合ニ在テハ債主ニ負ハ
シメタル損金ノ全額ヲ以テ輕卒ニ依テ得
ル高ト見做ス而シテ(ロ)号中ニ記載セシ場合ニ
在テハ本号中ニ論述セシ所行ノ各個ニ依リ
債主ニ負ハシメタル損金ノ各總計ヲ以テ輕
卒^ニ得^ル高ト見做スヘキモノトス

第三條 九^ノ已レカ職業ノ怠惰又ハ不法ノ家
政^等ニ依テ不能還償ニ^至ル者ハ其贖成
セ^ル損高ニ應シテ九ヶ月ヨリ多カラサル禁
獄ノ刑ニ處セラレ可シ

明治三十三年七月二十日ノ

刑法

第二百二十三條 凡^ソ身代限法則ニ照シ詐欺
ノ散^ルノ罪犯^ト涉^ル者ハ之ヲ一年以上十年以
下ノ徒刑ニ處ス可シ
若シ酌量輕減スヘキ情狀^ヲ審定^シタルハ
三ヶ月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル禁
獄ノ刑ニ處ス可シ

第二百二十五條 凡身代限法則ニ照シ輕卒
分散ノ罪犯^ト犯^キ涉^ル者ハ之ヲ二年^{以下}ヨリ^{以上}裁^スカラ
サ^ル禁獄ノ刑ニ処ス可シ

「ハムブールク」 千八百六十九年四月三日

ノ刑法

第三分散ノ事

第一百九十五條 (イ) 詐欺分散

凡^レ左ノ所行ニ依テ分散ヲ為シタル者ハ之
ヲ詐偽分散ノ罪犯ト為シ五年^{以下}ヨリ^{以上}裁^スカラサ
レ^ル羈絆ノ刑ニ處セラル可シ

第一款 財産ノ或ル部ヲ他方ニ移シタ

ルモノ

第二款 既ニ已レノ不能還償ヲ預知セシ

時ニ方リ在ノ所行ニ涉リシモノ即チ

(イ) 債主ノ損害ト為ル^トヲ洞知シ而

メ他人ノ報謝ヲ全ク受クル^トナシ

若クハ一日瞭然タル些少ノ報謝ヲ

受ケテ已レカ財産ノ或ル部ヲ^他授

典スル者

(ロ) 債主中ノ一名ヲメ還償ノ満足ヲ

得セシメンカ為メニ金ヲ拂ハサ

為替手形^等物品及ヒ郵船運賃^等証券

又ハ其他ノ金ヲ拂ハサル物^等體ヲ^讓費

却シ若クハ典當ト為シタル者(但シ

費却又ハ典當ニ屬セサレハ其渡

主尚ホ之ヲ請戻シ得ルキモトナレ
氏今更如何様ノ方便モナキモノト
リ

第三款 運送貨物或ハ其他委託ヲ受ケタ
ル物具ニシテ賣却スヘキノ權ナキモノ
ヲ賣却シ又ハ典當ト為シタル者

第四款 既ニ身代限處分ノ申渡ヲ受ケシ
後其裁決ヲ遵奉セス又ハ表誠ノ誓(所物
品ニ就ルテ誓ナラ默秘)ヲ為ス
者

第五款 已レカ財産ノ総額若クハ高業ノ
決算ヲ秘包スルカ為メニ高賣帳ヲ全ク
記載セス或ハ不法ニ記載シ或ハ減却シ

或ハ他方ニ授シタル者

第六款 已レノ財産高ヲ了知シテ之ヲ不
正ニ記載シ或ハ明切ナル事實ヲ秘シ
或ハ已レヨリ頼ミシ和解ヲ肯セサル者
第七款 身代限處分ノ落着前ニ遁走シタ
ル者

右ノ外身代限ニ就テ騙欺取財又ハ前款中ニ
記載セシ外モ他ノ景状ニ係ル監守盜並ニ偽造
等ノ罪ヲ犯シタル者ハ詐欺身代限ノ罪犯ト
シテ之ヲ處分ス可シ若シ此重罪犯前款中ニ
記載セシ刑ヨリモ重キニ處スヘキモノナル
片ハ其最モ重キ刑ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第百九十六條 輕卒分散

凡ソ輕卒分散ノ罪犯ト見做スヘキモノハ左ノ所行ヲ為シ因テ不能還償ニ至リ或ハ其負債高ヲ増大ニ為シタル者ニシテ之ヲ禁獄ノ刑ニ處ス可シトス即チ

第一款 相当ノ財産ヲ所有スル丁ナクシテ成不成ヲ後期スルノ企ヲ為シ或ハ相場ノ賭ヲ為シ或ハ品物及ヒ証券取次ノ職業ヲ営ミ因テ巨大ノ損耗ヲ醸成シ或ハ已レカ財産高ノ著明ナル総額ヲ不分明ト為ス等ノ所業

第二款 資本ナクシテ兌換ヲ本業ト為シ不條理ニ金錢ヲ取扱フ丁
第三款 奢靡博奕其他ノ浪費等ニ依テ不

相應ノ金額ヲ費耗スル丁

右ノ外輕卒分散ト見做スヘキモノハ左ノ所行ヲ為シ因テ不能還償ニ至リタルモノニシテ亦禁獄ノ刑ニ處ス可シトス

第四款 前條中第五款ニ記載セシ趣意アルニ非ニシト已レノ本職上缺クヘカラサル高賣帳ノ記載ヲ放擲シ又ハ不法ニ記載シ又ハ不満足ノ記載ヲ為シタル者

第五款 仮令ヒ高賣上ニ於テ恩謝スヘキ特別ノ情状アモ既ニ不能還償ノ場合ニ至リ或ハ既ニ不能還償ヲ了然預知セシニ方リ此ニ関セシテ拂金讓渡拂金ノ換償典賣推ノ委付又ハ債主中ノ一名

ノミヲノ還償ノ満足ヲ得セシムル等ノ
事ニ依テ財産ノ高ヲ非常ニ減少シタル
者

第六款 貸金高ト負債高トヲ對比スレハ
其負債ノ貸金ヨリ巨大ニシテ額ヲ超出シ
タルヲ洞知シ或ハ既ニ必然ヲ知スヘ
シト雖モ此ニ関セスシテ尚ヲ高業ヲ營
ミタル者

第百九十七條 詐欺和解

九ノ延期條約ヲ結ビ以テ已レノ富ヲ計ラシ
カ為メ已レノ財産ヲ諒知シテ債主ニ對シ詐
欺ノ記載ヲ為シ或ハ為サザトシタル者ハ詐
欺分散ト同般ノ刑ニ處セラレ可シ

ハエールン 千八百六十一年九月十日ノ

刑法

第三百二十七條 第三百二十八條及ヒ第三百
二十九條ノ場合ヲ除クノ外過大ノ負債ヲ偽
陳シ或ハ真ニ過大ノ負債ヲ為セシ後法ニ背
キ已レカ財産ノ或ル部分ヲ隱藏シ又ハ之ヲ
債主ヨリ掠略シ又ハ負債高即チ義務ノ全部
若クハ其一部ヲ虚捏シテ之ヲ歴陳シ又ハ恣
慾ヨリ出テ止タ一名ノ債主ニ還償ノ満足ヲ
得セシムル等ノ所行ヲ以テ債主ニ損耗ヲ負
ハシメタル者ハ一ヶ月以上禁獄
ノ刑ニ処セリ且ツ同時ニ第二十八條ニ掲

ケタル副刑若クハ其刑ノ一箇ヲ申渡シ可
シ
若シ右損耗ヲ右（右）（総計）千ギユルデニ以上ニ至リタ
ル片ハ八年甲下、罰カラサシ、徒刑ニ処セラル
可シ

第一項中ニ掲ケタル輕罪ノ既行未成モ亦刑
ニ處セラル可キモトス

第三百二十條 九ノ商人又ハ製造場主其拂ヒ
金ヲ淹滞シテ左ノ所行ニ涉リタルキハ平常
分散ノ罪犯ニ依テ論シ二年甲下、（下）多カラサル
禁獄ノ刑ニ処ス可シ

第一款 已レカ職業ノ性質ニ就テ必須ナ
ル帳面ノ記載ヲ放棄シ若クハ不法ニ記

載シ因テ輸入輸出ノ現状ヲ見込（下）立レ
能ハサル如ク為シタルキ

第二款 已レカ職業ノ懈怠（下）并ニ分外ノ冗
費、又高品若クハ金錢請取証券（下）以テセル
相場ノ賭等ニ依テ不能還償ニ至リタル
キ

第三款 已レノ負債高ハ既ニ貸金高ノ二
倍ニ至リタルニ方リ尚ヲ金銀ヲ借用シ
又ハ品物ヲ買入レ又ハ新タニ為換手形
ヲ作り又ハ其他高賣ニ属スル預リ手形
ヲ作り又ハ品物若クハ預リ手形ヲ低價
ニ賣却シタルキ

第三百二十九條 九ノ商人又ハ製造場主其拂

と金ヲ為シ得サルモノニシテ若シ左ノ所行ニ涉リタルキハ詐欺分散ノ罪犯ナリトシ十二年^{以下}其ノ罪カラスル^ル徒刑ニ處ス可シ

第一款 第三百二十八條中第一款ニ掲ケタル所行又ハ懈怠ニ依テ故意ヨリ已レノ債主ニ損耗ヲ負ハシメタルキ右ノ外尚ヲ四様ノ場合アリ今此ニ畧ス

千八百四十五年三月六日ノ刑

法

凡ソ詐欺ニ依テ其債主ニ損耗ヲ負ハシメタル負債者若シ左ノ所行ヲ為スルハ詐欺分散^(第五十四條)ノ罪ニ處決セララル可シ

第一款 財産ノ或ル部分ヲ隱藏シ又ハ之ヲ他方ニ移シ又ハ之ヲ証各上ニテ賣渡シ又ハ其身ニ取り顯然重要ナル物具ヲ償ヲ得スシテ之ヲ之ヲ他人ニ與ヘ又ハ低價ヲ以テ之ヲ賣却スル等

第二款 已レノ財産高ヲ偽陳シ^{陳テ}還償ヲ偽リ^詐故ラニ明言シ或ハ身代限ノ處分ヲ受ケシ後故意ヲ以テ止メ一名ノ債主ニ還償ノ満足ヲ得セシメ他ノ債主ニ損害ヲ加ヘ或ハ貸金ヲ黙秘シ又ハ負債ヲ虚捏シテ歴陳スル等

第四百六十六條 凡ソ非常ノ冗費、不法ノ家政、職業ノ懈怠或ハ成不成ヲ徒期スル等ノ現然

已レノ財産ト不^二衡平ナル所^一為^レテ債主ニ
損耗ヲ負ハシメタル負債者若シ身代限ノ着
手ヲ受ケシ後其債主ニ負ハシメタル損耗ヲ
曾テ其所行^ハ方法上ニ於テ既ニ了然洞知シ
得タルモノナルハ六ヶ月^{以下}ヨリ妻カラサル
禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第四百六十七條 九ノ不能還償ニ至リタル高
人ハ左ノ如ク処決セラル可シ

第一款 輕卒ノ不能還償(高法第二百五十
葉及ヒ第二百五十一葉)ニ就テハ二年^{以下}
ヲ妻カラサル郡邑禁獄若クハ工役場ノ

刑

第二款 詐欺ノ不能還償(高法第六十九條

第二百五十七葉及ヒ第二百五十八葉)ニ
就テハ一年ヨリ少カラズ八年ヨリ妻カ
ラサレ徒刑但シ其犯^高ノ輕キ場合ニ
在テハ二年ヨリ妻カラサル工役場ノ刑

フレ^一メニ 千八百六十八年ノ草案

第三百三十八章

第四百十八條 已レノ財産ニ就テ分散^ハ處分^ヲ受
シタル負債者左ノ所行ニ涉リタルハ平常
分散ノ罪犯ト為シ一年^{以下}ヨリ多カラサル禁獄
ノ刑ニ處^スラ^ル可シ

第一款 已レノ財産カヨリ遙カニ超過シ
タル徒費ヲ浪用シ或ハ已レカ職務執行

至大ナル懈怠若クハ至大ナル輕卒メ
罪ヲ犯シ或ハ其レカ財産支配^ヲ至大ナル
ル懈怠若クハ至大ナル輕卒^ヲ罪ヲ犯シ
タルキ

第二款 已レカ財産ノ分散ヲ預知シ若ク
ハ必ス了知セサル可ラザルノ場合ナル
ニ此ニ関セシテ全ク成不成ヲ後期ニ或
ハ止タ^一瞬間金銀ヲ收入^シシカ為メ
ニ企^テ所業ニ依テ救急ノ方ヲ咄嗟
ニ求メタルキ

第三款 負債者若シ商業並ニ製造所ノ職
業又ハ之レト類似ノ職業ヲ為ス者^{ニ屬}
ト確定セシキ^ト於^テ行^ハ海^外ニ
ト確定セシキ^ト於^テ行^ハ海^外ニ

(イ) 已レノ職業執行ニ就テ缺クヘカ
ラサル帳簿ノ記載ヲ為サ^ルル

(ロ) 負債者已レノ財産ヲ各個ニ配分
スルニ當リ債主ハ其請求高ノ四分
一ヲモ落手シ得サルハキ^トヲ已ニ
業ニ者透シ若クハ必ラス者透セサ
ル可ラサルノキニ至リ尚ヲ不能還
償ノ^トヲ裁判所ニ啓告セス

(ハ) 不能還償ノ後速カニ分散ノ^トヲ
裁判所ニ啓告セス

総テ如此ノ場合ニ在テハ禁獄ノ刑ニ係セラ
公務擢用ノ禁ヲ申渡サル可シ

第四百四十九條 已レノ財産ニ就テ分散ノ着^心

手分ヲ受ケシ負債者左ノ所行ヲ為スニ涉リタルハ第四百五十條ニ照シ詐欺分散ノ罪犯ニ依テ處決ス可シトス

第一款 負債者已レカ財産ノ全部若クハ其一部ヲ隱藏シ或ハ他方ニ移シ置キタルキ

第二款 負債者裁判官或ハ管財人ニ對シ全部若クハ其一部ヲ虚捏シタル負債即チ義務ヲ偽陳シタルキ

第三款 負債者若シ商業製造所ノ職業又ハ之ト類似ノ職業ヲ為以者^{ニ爲リテ}ハ確定シ而シテ其債主ニ損耗ヲ負ハシムルノ故意ニ出テ已レノ職業執行ニ必須ナル帳面ノ記載ヲ全ク放棄シ或ハ其帳面ヲ滅却シ若クハ隱藏シ或ハ其帳面ヲ以テ已レノ財産高ヲ確認シ得ハカラサル如ク記載シ若クハ変易シタルキ

第四百五十條 詐欺分散ハ六ヶ月^{以下}少カラサル禁獄ノ刑ニ処セラレ併セテ賦税自由及ヒ高賣自由ノ權ヲ執ルノ禁或ハ其權ノ一部ヲ執ルノ禁ヲ申渡サル可シ

其犯ノ輕キ場合ニ在テハ右ノ副刑ヲ除ヒテ四週間ヨリ少カラズ一年^{以下}少カラズハ禁獄ノ刑ニ処スラル可シ

若シ詐欺分散ニ依テ巨大ノ財産損害ヲ醸成シタルハ十四年^{以下}少カラサル徒刑ニ處

セシレ其輕キ場合ニ在テハ一年ヨリ少カラ
サル禁獄ノ刑ニ處セラルル可シ

ヲースタリヤ 千八百六十七年ノ草案

第二百七十七條 已レノ財産ニ就テ身代限ノ

処テ受ケシ負債者若シ左ノ所行ニ涉リタ
ルキハ詐欺ノ重罪犯ナリトス

第一款 故意身代限ノ着手ト連絡ニテ詐

欺ノ所行ヲ為シタルキ

第二款 已レノ債主ニ損耗ヲ負ハシムル

ノ故意ニ出テ已ニ過大ナル負債ノ宗積

セシテヲ諒知シタルノ時機ニ臨

(イ) 已レカ財産ノ或ル部分若クハ他

ノ部分ヲ隱藏シ或ハ他方ニ移シ或

ハ格外ニ過剩ノ拂金ヲ為シ或ハ他

人ノ名目ヲ以テ物品ヲ購求シ或ハ

其他ノ贏利ヲ營ミ或ハ已レカ財産

ノ或ル部分ヲ賄酬ナシニ贈物ト為

シ或ハ何レノ名義タルヲ論セス他

人ニ譲リ渡シ若クハ實ニ賤ヲ取り

タレ氏格外ニ不相当ノ低價ヲ以テ

他人ニ賣リ渡シ或ハ貸金ノ請求ヲ

投棄シ或ハ拂フヘキ權義ナキ金ヲ

拂フ片

(ロ) 拂金ヲ為シ就テ或ハ典物ノ權

又ハ証書ノ權ヲ讓リ渡シ或ハ通常

請求ノ權ヲ特別ノ權ニ變易シ或ハ
其他何レノ方法ヲ論セス法ニ背キ
債主中ノ一名ニシテ拂ヒテ為シ之
ヲ満足セシムルキ

(八)

財産輸出入ノ現状ヲ无妄ニ陳述シ
シ殊ニ現存セシ貸金請求ノ義務ヲ
黙秘シ或ハ一般ニ已レノ不能還償
ヲ虚捏シ又ハ秘包シ或ハ草ニ負債
ヲ虚捏シ又ハ秘包シ或ハ何レノ方
法ヲ論セス右等ノ所行ニ依テ真ニ
現存セル財産総額ノ減省ヲ為スル
義務ト為シテシテ或ハ其帳面ヲ全

(二)

ク記載セス或ハ其全部若クハ一部
ヲ不法ニ記載シ或ハ其帳面ニ依テ
商賣執行ノ經歷及ヒ財産高ノ認了
シ得ヘカラサル如クニ記載シ或ハ
其帳面若クハ其他ノ証書類ヲ偽造
シ隠蔽シ滅却シ及ヒ他方ニ移シタ
ルキ

第二百八十三條

已レノ財産ヲ以テ身代限
為スニ至リタル負債者若シ左ノ所行ヲ為シ
タルキハ怠惰分散ノ輕罪犯ナリトス

(イ)

過度ノ雜費、營業ノ怠惰、不法
政、成不成ヲ徒期シタル撮空ノ職業
或ハ已レノ財産ト不衡平ナル艱險

所行或ハ非常ニ崇積シタル負債
等ニ由テ不能還償ヲ致シ又ハ不能
還償ヲ益々増大ナラシメタルキ
(口) 債主ニ損耗ヲ負ハシムルノ故意
ナクシテ第二百七十七條中(ハ)号ニ
掲ケタル所行ノ~~十箇~~罪ヲ犯シタル
キ

チユリリヒ 千八百六十六年ノ草案

第百九十六條 真ニ不能還償ニ至リタル者或
ハ詐欺ヲ以テ不能還償ヲ偽陳セシ者若シ左
ノ所業ヲ為スニ涉リシキハ詐欺分散ノ罪犯
ナリトス

(イ) 詎者已レ加財産ノ全部若クハ一
部ヲ隱藏シ或ハ他方ニ移シタルキ

(ロ) 詎者全部若クハ一部ヲ虚捏シシタ
ル負債ヲ偽陳シ~~或ハ一部ヲ虚捏シシタ~~
ル負債ニ損耗ヲ負ハシメタルキ

(ハ) 詎者計算簿又ハ商賣帳ノ全部若
クハ一部ヲ隱藏シ或ハ他方ニ移シ
或ハ偽造シ或ハ偽テ其帳ニ記載セ
シキ

(ニ) 詎者已レノ債主ニ損耗ヲ負ハシ
ムルノ故意ニ由テ已レカ職業ノ為
メニ必須ナル商賣帳ノ記載ヲ為サ
ス或ハ其帳面ニ就テ財産高ヲ毫モ

條
四

認了シ得ヘカラサル如クニ記載シタルキ

第百九十七條 詐欺分散ハ工役場ノ刑ヲ以テ之ニ擬ス可シ但シ其輕キ場合ニ在テハ底々禁獄ノ刑ヲ以テ處決シ得ヘキトス

第百九十八條 已レノ拂金ヲ淹滞シ或ハ不能還償ニ至リタル者若シ左ノ所業ニ涉リシキハ輕卒分散ノ罪犯ナリトス

(イ) 詎者詐欺ノ趣意ナシニ已レノ職業ニ就テ必須ナル帳面ノ記載ヲ放棄シ或ハ其帳面ヲ以テ財産輸出入ノ現状ヲ認了シ得ヘカラサル如クニ記載シタルキ

(ロ) 詎者已レノ財産がニ超過シタル雜費ヲ浪用シ或ハ輕卒心ヨリシテ事業ヲ企テシキ或ハ詎者已レノ分散ヲ預知シ又ハ必ス之ヲ了知スニカラサルノ場合ニ此ニ関セスシテ品物又ハ証券切手ヲ賤賣シ或ハ金銀ヲ借用シ若クハ品物ヲ買入レ因テ過大ノ負債ヲ為シタルキ

第百九十九條 輕卒分散ノ罪犯ハ禁獄ノ刑ニ処スル可シトス

フランス 千八百十年二月十二日乃至二十日ノ刑法

第四百二條 高法ニ記載スル場合ニ於テ家資
分散ヲ為スノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ刑ニ處
セラル可シ

故ラニ他人ノ金銀ヲ竊取セント欲スルノ意
ヲ以テ偽テ家資分散ヲ為シタル者ハ有期ノ
徒刑ニ處セラル可シ

故ラニ他人ノ金銀ヲ竊取セント欲スルノ意
ナリ過咎ニ因テ家資分散ヲ為シタル者ハ一
月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル禁錮ノ
刑ニ處セラル可シ

第四百三條 高法ニ記載スル所ニ循ヒ故ラニ
他人ノ金銀ヲ竊取セント為スノ意ヲ以テ偽
テ家資分散ヲ為シタル者ノ附從ハ其首謀ト

同刑ニ處セラル可シ

第四百四條 人ノ為メ貿易ノ牙保ヲ為ス者家
資分散ヲ為シタルキハ有期ノ徒刑ニ處セラ
ル可シ若シ其牙保ヲ為ス者ニ於テ故ラニ他
人ノ金銀ヲ竊取セント為スノ意ヲ以テ偽テ
家資分散ヲ為シタルノ証アルキハ無期ノ徒
刑ニ處セラル可シ



